



島の人の魅力的な暮らしに溢れた空間の先に瀬戸内海が広がります



高校生から高齢の方まで、多様な待ち方を受け入れるように、それぞれの空間が広がります



登下校のついでに寄りたくなるような待合所は、瀬戸内海から大崎上島へ軸線を通すように建ちます



心地よい距離感の勝手口空間に在るだけで島のいろいろな情報が飛び込んできます



袖壁のこもり空間は外の活動を引き込み、待合所は島のいろいろな情報が集まる場所になります

コンセプト

0. 生活に流れを生み、暮らしのあれこれに囲まれた勝手口空間

フェリーから島に降りると、船の解体の音が聞こえてくる、入口に腰を掛けて煙草を吸う人がいる。

そんな場所にはかきこもった玄関よりもどこか島の生活感に溢れた勝手口のような空間が、旅人は離島にしかない魅力を感じ、島の人にとっても使い勝手のいい居場所になるのではないだろうか。

家に勝手口があると暮らしがぐっと便利になるように、「離島の勝手口」の扉を開けると、島の暮らしにあふれた、島の人とも旅人も魅き込まれるような待合所を設計します。



島と待合所の課題

1-1. ただ「通り過ぎる」だけの待合所

■待合所がただ通り過ぎるだけの空間になっています

今の広くまとまった待合空間は、毎日利用されるオムニバスを持ちながら、実際には利用者が「待つ」というよりも、トイレ・売店・受付などを利用するために「通り過ぎる」だけの場所になっています。

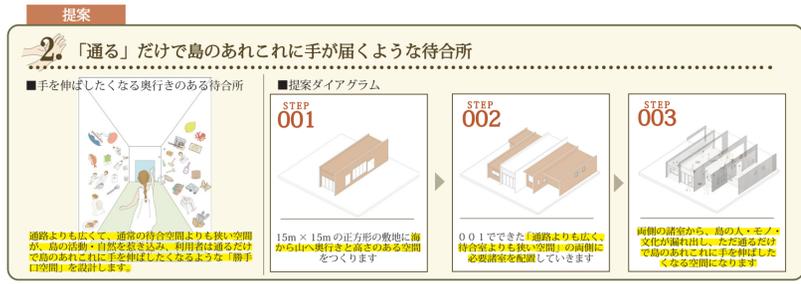


1-2. 広がりにくい島の情報網

■島内の活動が島の人たちに広がっていません

大崎上島でも少子高齢化は大きな課題であり、さらに離島であるがゆえに様々な問題を抱えています。それらを解決する取り組みが盛んに行われているのが、島の内外にも上向き情報が伝わっていないようです。通勤通学を毎日利用する待合所こそ、島の情報を島内外へ広げる新しい場所になるのではないかと考えました。

大崎上島の4つの取り組み



デザイン

4. 島の課題から生まれた5つのデザイン

島の人も島の外の人にも待合所に入ると、島の情報を手伸ばしたくなる「勝手口空間」とするために5つのデザインを提案します。離島ならではの「島の魅力」や「島の生活感」などの動かない情報も人の活動と一緒に点在させることで幅広い情報が手届くようになります。

① ぼくっと 通院

島の通院が得意な高齢の方が受付の方とぼくっと話して島の新しい情報交換の場所となります

② わちゃっと 世代交流

若い世代の方が集まるおちゃわちゃ空間で、年齢に縛られない情報を知ることができます

③ ぱくっと 地産地消

島でとれた食材や売店の商品が手届くことで、島の食材を知ることができます

④ すっと 観光情報

旅人がすっと入って、海を見ながら、パンフレットなどで島の情報を知ることができます

⑤ ひそっと 情報交換

カフェ等の小空間が少ないですが、ここではちょっとこもって仲間同士でお話できます

